

タイトル	著者名	内容紹介
愛しさに気づかぬうちに	川口 俊和	『コーヒーが冷めないうちに』シリーズ第6巻！ 不思議な喫茶店フニクリフニクラで起こった心温まる四つの奇跡。
またうど	村木 嵐	【またうど】愚直なまでに正直なまことの者。 前例や格式にとらわれず、卓見と奮迅の働きで日の本を支えた田沼意次は、なぜ突如老中を罷免され領地を失ったのか一。
よむよむかたる	朝倉 かすみ	「喫茶シトロン」での月に一度の読書会は今年で20年目を迎える。なぜ老人たちは読書会を目指すのか。 読みが語りを生み、語りが人生を照らし出す。幸福な時間が溢れだす、傑作読書会小説。
作家刑事毒島の暴言	中山 七里	「作家刑事毒島」シリーズ第4弾！ 新人賞を獲ったばかりの作家の卵が殺された。高千穂刑事と、作家兼業の毒島刑事は、被害者が通っていた小説教室を訪ねる。尋問が大好きな毒島は、受講生のプライドをへし折る容赦ない取り調べを行うが――。
新謎解きは ティナーのあとで 2	東川 篤哉	執事探偵×令嬢刑事コンビの国民的ユーモアミステリ、第2弾！ “迷”推理を繰り広げる風祭警部に、後輩の愛里ちゃん。2人に振り回されながら、麗子は影山と5つの難事件に挑む！
小鳥とリムジン	小川 糸	家族に恵まれず、生きる術も住む場所もなかった18歳の小鳥に、自身の介護を仕事として依頼してきたのは、小鳥の父親だというコジマさんだった。病によって衰え、コミュニケーションが難しくなっていくのと反比例するように、少しずつ心が通いあうようになっていたが…
迷惑な終活	内館 牧子	やり残したことにケリをつけるのが、本当の終活だ。夫は「生きているうちに死の準備はしない」という主義だが、あるきっかけから終活をしようと思いつく。それは家族や他人のためではなく、自分の人生にケリをつけること。彼の始めた終活が思わぬ事態を引き起こし――。